

PICK UP

地域と出会い、未来をひらく

東温市全体を学びのフィールドに

東温高校の新たな一歩

今年度から東温高校では、学校と地域が力を合わせて生徒の学びや成長を支える「コミュニティスクール」と、生徒一人ひとりの興味や進路に応じて学ぶ科目を選択できる「進学型総合学科」が始まった。

コミュニティスクールは、学校運営協議会を設置し、学校が地域の人たちと目標や課題を共有しながら、地域と一体となって学校づくりを進める仕組みだ。

また、進学型総合学科は、これまでの普通科と商業科を再編したもので、生徒一人ひとりが自分だけの時間割を組み立てることができる。

東温市唯一の高校として、地域との連携を深め、その声や力を学校運営や教育活動に取り入れることを目指している。

広がる地域との繋がり

これまでも、商業科での商品開発や販売実習など、地域と連携した活動はあったが、今年度からは、企業や農家、地域団体などから寄せられる情報をもとに、地域コーディネーターが学校と地域を繋ぎ、新たな連携が期待される。

例えば、地域のこども館から、高校生と交流したいという子どもたちの声が寄せられ、生徒が現地を訪れ、一緒にドッジボールを楽しむなど、活動の幅が広がっている。

出会いが生徒の力に

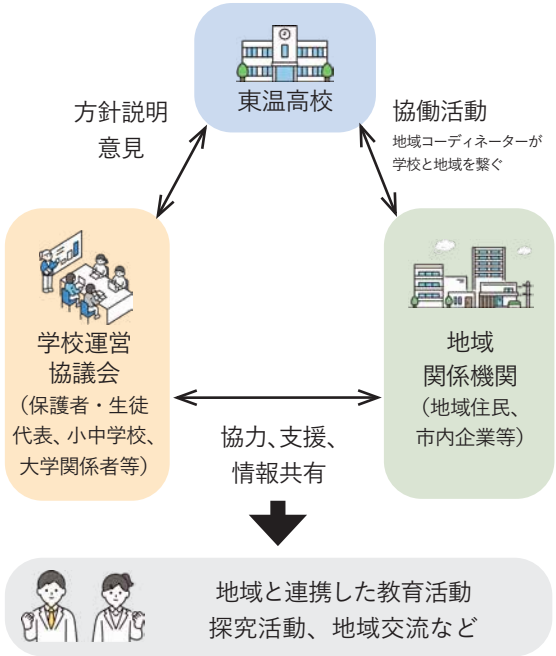
地域での活動は、生徒にとっても、普段の学校生活では出会えない大人と話をし、さまざまな考え方や仕事、地域への思いに触れる貴重な機会となっている。

10月に開催された第2回学校運営協議会では、生徒代表9人が参加。「東温高校を魅力ある学校にするためには」をテーマ



東温高校
後藤 一美（ひとみ） 校長（写真右）
菊池 康太（こうた） 総合学科課 課長（写真左）

コミュニティスクールとは




学校運営協議会で生徒が提案を伝える


シキミ栽培の現場を見学

地域に育てられ、地域を支える人へ

に意見を交わし、中学生に学校の魅力を伝える方法など、生徒ならではの視点から多くの提案が出された。

さらに、協議会に参加した生徒の有志が、井内地区で作られている思季美（しきみ）線香の魅力を発信しようと、シキミ農家の栽培現場を見学して、栽培や製品づくりを手伝い、その模様を動画やSNSで発信し、イベントでの宣伝販売を考えている。菊池課長は、「自分たちで考え、行動に移そうとする姿に可能性を感じた」と生徒たちの成長に期待を寄せている。


横河原ぷらっとHOMEで子どもたちと交流


こども館でドッジボール交流

地域とともに作る学びの形

「東温高校生がいるから、地域が元気になる」。そんな声が自然と聞かれる関係を目指している。

後藤校長は、「高校生と一緒に地域の活動に取り組みたい、体験をしてもらいたいという提案があれば、授業の範囲で実施できればと思うので、是非連絡して欲しい」と呼び掛ける。地域の声やアイデアが、新たな学びのきっかけになるかもしれない。学校と地域が互いにできることを持ち寄り、ともに生徒を育て、地域の未来をつくっていく。



令和８年度からスタート 進学型総合学科

～自分が選んだ学びが、未来に繋がる～

問東温高校☎ 964-2400

STEP1　１年次　学びを選ぶ



共通科目を学びながら、探究活動に取り組む。

社会や仕事について知り、自分の興味や適性、将来について考える。

STEP2　2、３年次　自分の時間割で学ぶ



共通科目に加え、７つの系列から自分に合った120以上の選択科目を組み合わせて学ぶ。得意な分野を伸ばしたり、進路に必要な科目を重点的に学んだりと、一人ひとりに合った学びを実現できる。

先生からのメッセージ



探究活動や地域での経験は、自分の考えを深め、新たな可能性を見つけるきっかけとなります。一人ひとりが希望する進路の実現に向けて、さまざまなことに挑戦し、自分らしい未来を切り開いて欲しいと願っています。

＼詳しくはこちら／